

# 神籠石ってなんだろう

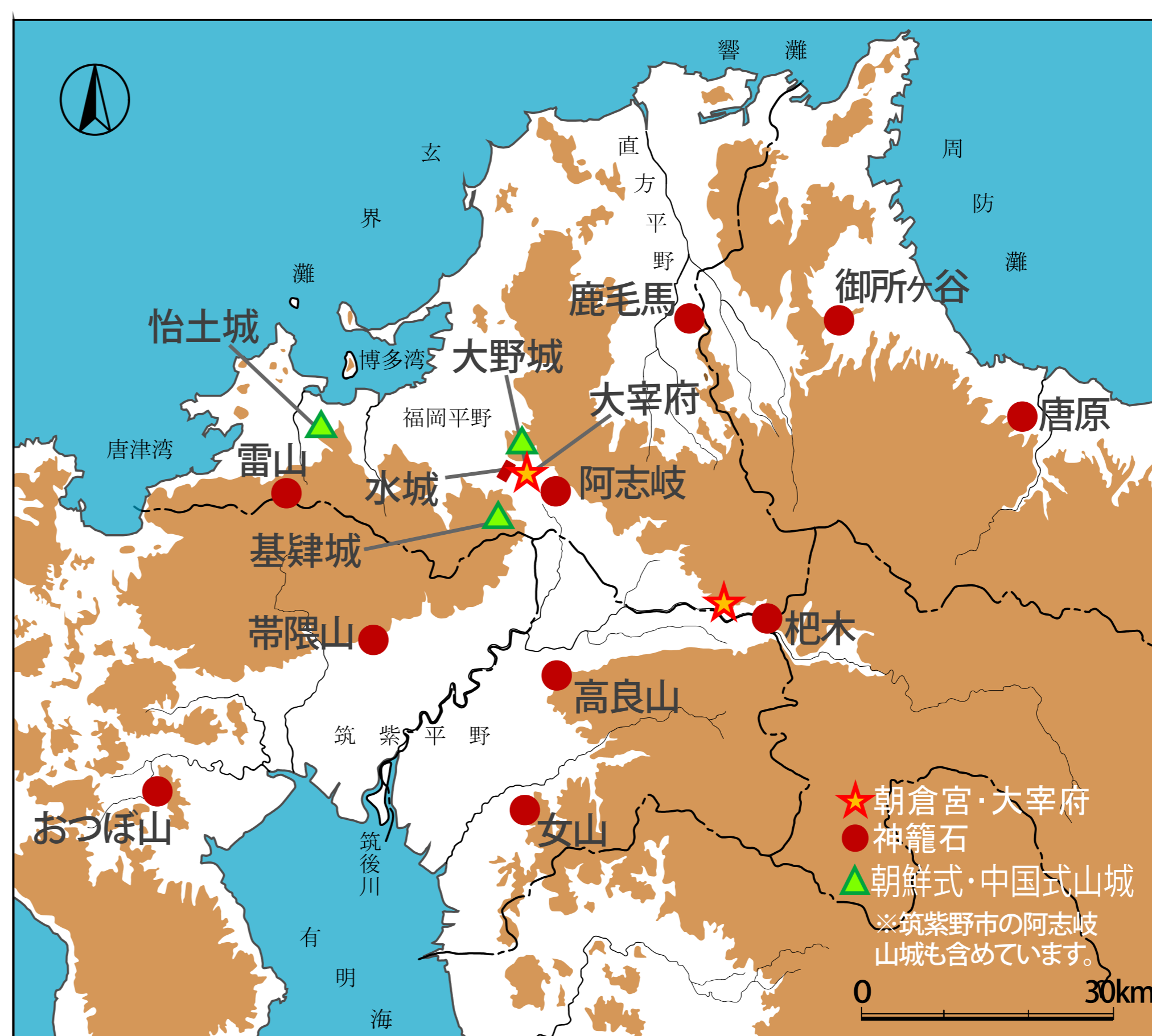
高良山こうらさんには古くから「八葉石はちようせき」と呼ばれる列石れっせきがありました。これが江戸時代の終わり頃からは、「神籠石こうごいし」と呼ばれるようになります。

明治時代になると、高良山神籠石こうらさんこうごいしとして学界に紹介されます。この時は、高良大社の範囲を示すものとして、「神域」であると考えられました。

その後、同様の遺跡は、北部九州を中心に16カ所ほどが発見されています。研究が進み、現在では「朝鮮式山城」の一種と考えられています。



■ 高良山の姿と明治末の神籠石列石



■ 北部九州における神籠石と朝鮮式山城の分布